

【心大血管の疾患】

企画・編集：真鍋徳子 自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科

序 説：見落とせない心血管疾患を拾おう

「読影のお作法—連続画像スライスで追う」シリーズは、腹骨盤部急性疾患から始まり、中枢神経系、泌尿器・産婦人科と領域を拡大しながら、今回で第4弾を迎えます。

本号では、日常臨床において遭遇頻度が高く、かつ正確な診断が患者予後に直結する「呼吸器疾患」、「循環器疾患」を特集しました。特に画像診断の専門性が求められる心血管領域を担当し、読影技術が実際の臨床判断や治療戦略に直結するよう留意して構成しております。

執筆は100回以上続く歴史ある「日本心臓血管放射線研究会」の世話人を中心に、国内外でご活躍中の循環器画像診断のエキスパートの先生方にご担当いただきました。

冠動脈CT、心臓MRI、核医学のモダリティを駆使した、冠動脈・大血管疾患、心筋症、心筋炎といった幅広い疾患へのアプローチを取り上げ、読影時の着眼点やピットフォールを実例とともに解説しています。

循環器画像診断というと、「専門外だから……」と構える先生も多いのではないのでしょうか。日常診療で癌のフォローアップCT読影時に、思わぬ偶発所見として遭遇することの多い疾患も取り上げていただきましたので、かゆいところに手が届く内容となっております。

本特集では、これまでどおり、連続スライス画像と代表的キー画像を併載し、動態や構造変化を連続的に把握することによって、画像の「読解力」の涵養を目指しています。静止画ではとらえにくい病変の広がりや解剖学的関係性を、臨床的意義と結び付けながら提示することにより、読影に臨む思考プロセスそのものを可視化する構成となっております。

また、各章では、初学者や専攻医はもちろん、循環器が専門外の専門医の先生にもわかりやすいよう、診断アルゴリズムや正常像との比較を丁寧に示し、臨床での再現性を高める工夫を随所に凝らしています。ここ数年のアップデートな内容も含めていただき、知識のブラッシュアップとしてもお使いいただけます。

教科書的な知識の整理に留まらず、実地での応用力を育む内容となっており、読後には循環器画像診断の新たな視座を得られることと思います。

本特集が、読者の皆様にとって、明日からの診療を支える実用的なりファレンスとなることを願っております。精緻かつ情熱的な執筆をいただいた先生方に、心より深謝申し上げます。

真鍋徳子